



1 社会資本の概要

生田緑地は、川崎市の北西部、多摩丘陵の一角に位置し、豊かな自然環境を背景に、文化施設も備わった四季を通じて散策できる自然の緑地として、多くの市民に親しまれています。

昭和16年に都市計画決定し、昭和39年度から公

園施設の整備を進めており、現在、約117ヘクタールを市民に使用しています。

文化施設には、日本家園、かわさき宙と緑の科学館、岡本太郎美術館、藤子・F・不二雄ミュージアム等があり多くの利用者と賑わっています。



飛森谷戸入り口の看板



ゲンジボタルが生息しています

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

初山地区は、生田緑地の山林と耕作地が里山の風景を残し、都市部に在りながら地元の人々の繋がりも厚く伝統も受け継がれています。その中で宮前区区制30周年記念で制作された「みやまえカルタ」の「とんもり谷戸」の読み札絵札を会独自に制作し設置、広報して散策する方々に観て頂き、どんな場所かを理解頂く様に努めています。また森の広場において

は、「森の音楽会」(年2回)を通して木に拘った楽器演奏を楽しむと共に、会の活動報告や現況などについて話しています。



みやまえカルタ



森の音楽会

3 地域への成果や波及効果等

多くの方に活動を知ってもらうためのイベントである「森の音楽会」は、既に28回(14年間)続けており、広域的PR効果を生むとともに、地域コミュニティの場として定着しています。毎回100名以上、多い時は200名近い方に参加いただき、延べにして4千人以上の方に観覧してもらっています。

4 前回受賞時からの活動の発展内容

定例作業の場所は、田んぼの再生や、遊歩道の整備が進められており、清掃など含めて活動範囲が広がっています。平成26年度の整備では、新たに水路が作られ(暗橋をオープンスペースに)活動場所が広がる予定です。定例作業には、知的障害施設である社会福祉法人「はぐるまの会」の参加を頂き、参加者の幅も広がっています。



田植え～稲刈り、脱穀は、年間一大イベントです



●受賞者

飛森谷戸の自然を守る会
事務局長 高木 一弘

●コメント

平成27年1月28日に他界された矢澤茂会長(享年59歳)の想いとして、「頑張り過ぎずに、無理せずに関心しながらボラ活に携わるのが長続きの秘けつ、ゆっくりやれば「いいんじゃない」が口癖でした。

会長へ直接に手渡す事が出来ないのが非常に残念ですが、彼の想いを胸に、この自然をこれからも大切にしていきたいと思っています。

●活動内容

- ・田んぼ整備
- ・森の音楽会
- ・ゲンジボタルの保護活動 など

●活動の経緯

- 平成 8年 3月24日 発足
- 平成10年～ 4年掛けて宅地開発で無くなる犬蔵谷戸よりゲンジボタルを移植。保護育成。
- 平成12年～ 多摩区の友好都市である長野県佐久市大沢財産区と森林体験の市民交流を開始。
- 平成22年～ 湿地を田んぼへ復田。

所在地

神奈川県川崎市多摩区枳形 6-26-1

活動主体及び連絡先

飛森谷戸の自然を守る会

対象となる社会資本

生田緑地

※川崎市建設緑政局緑政部

生田緑地整備事務所 (044-934-8577)

